［研究論文］

「－残る」を後項要素とする複合動詞

── その語構成と語義 ──

玉　村　禎　郎

要　　旨

複合語の語義は、おおよそその語を構成する要素と要素間の結合関係によって決まると言える。したがって、一般的に言えば、語義変化などが生じていない場合には、語構成の知識があれば、未知の複合語の語義が推定しやすくなる。ところが、なかには「－残る」を後項要素とする複合動詞のように語義変化が生じたわけでもないのに語義の推定が難しいものがある。「消え残る」「焼け残る」などは「生き残る」「勝ち残る」と同じようには理解できないのである。本稿は、それが「－残る」の語義上の特徴に起因するものであることを明らかにする。

1.　はじめに

我々は、未知の語に出逢った際、前後の文脈を手掛かりにしたり、その語を類似の構成の語と対比したりして、語義の推定を試みる。複合語は語構成と語義との間に一定の関係が認められるものが少なくないので、たとえ未知の語であったとしても、その構成要素が理解でき、さらに構成要素間の結合関係が推定可能であれば、語全体（複合語）の意味が把握できるのである。その点で語構成の知識は、語彙の科学的な習得とりわけ理解語彙の拡張には欠かせないものと言える。

しかし、玉村禎郎（2013）でも論じたように語義の推定が容易でない複合語もある。そのような複合語には語義に変化が生じてもとの語義と隔たったものになっている語が少なくないが、なかには語義に変化が生じていないにもかかわらず語義の推定の難しいものがある。本稿はそのような語の例として「－残る」を後項要素とする複合動詞を取り上げて、その原因について考えることにする[1)]。

2.　問題のありか

（1）　汽笛一声　新橋を
　　はやわが汽車は離れたり

愛宕の山に入り残る
月を旅路の友として

右は高輪　泉岳寺
四十七士の墓どころ
雪は消えても　消え残る
名は千載の後までも
（「鉄道唱歌」）

これは、大和田建樹作詞の「鉄道唱歌」である。明治時代に作られたこの歌は各地の地理、歴史、民話、名産に関する諸々の知識が習得できる歌詞と軽快な音律が子供にも大人にも魅力的であった。しかし、それから100年以上も経った現代では、子供は言うまでもなく大人でさえも歌詞が難しいと感じるのではなかろうか。赤穂浪士の事件が遠い過去のものとなった現代では、四十七士の打ち入りやそれが師走の夜の出来事であったことを知らない場合もあって、「雪は消えても　消え残る　名は千載の後までも」を難しいと感じるようである。だが、その根底には「消え残る」の意味が正確に把握できず、「消え残る」と「名」の関係も理解できないという問題がある。実はここには「消え残る」が「－残る」を後項要素とする複合動詞であることが大きく関係していると見られる。したがって、「消え残る」およびその関連語を中心に考察するにする。

3.　「消え残る」と関連語

3.1　語の基本度

「消え残る」は、また国立国語研究所（1964）『分類語彙表』（収録語数約32600）や甲斐睦朗（2010）「小学国語辞典改訂版（光村教育図書）』（収録語数約33000）、金田一春彦・金田一秀穂（2011）「新レインボー小学国語辞典改訂4版（学研）』（収録語数約37000）などの児童向けの辞典にも収録されていて、とくに高度で難しい語とは言えないが、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJとする）には僅かに4例（小説と学術書）しかなく、国立国語研究所（2006）「現代雑誌200万字言語調査語葉表データ公開」（自立語収録語数59222）にも掲載がないことなどから見て、あまり使用されない語であることが分かる。

語の基本度が低くなれば、その語に接する機会が少なくなるわけであるから、語義が分からないという人が増えるのは当然のことである。ただ、以下に考察するように、この語の理解の難しさには、基本度以外の因子の作用が大きいと考えられる。

3.2　語の構成

未知の語に出逢ってその語義を推定する際には、未知の語と共通要素をもつ既知の語を手掛かりにすることが多い。「消え残る」の場合であれば、既知の語から、

X：「消え－」を前項要素とする複合動詞

Y：「－残る」を後項要素とする複合動詞

を探し出して、それらを手掛かりにすることになる。

そこで、XとYの条件を満たす語（「消え残る」は除く）を『新明解国語辞典　第5版』（収録語数約73000）や『岩波国語辞典　第7版新版』（収録語数約65000）から抜き出し[2)]、BCCWJにおける各語の使用度数を（　）内に示すことにした。それがリスト1である。

【リスト1】「消え－」及び「－残る」を構成要素とする複合動詞

X：

消え入る（90）
消え失せる（246）
消え去る（367）
消え果てる（0）

Y：

明け残る（0）
生き残る（1107）
居残る（99）
勝ち残る（88）
暮れ残る（6）
咲き残る（9）
散り残る（2）
焼け残る（72）

リスト1のXからは、「消え－」を前項要素とする複合動詞が4語あること、このうち使用度数順上位2語（「消え去る」「消え失せる」）の使用度数の合計が613で、これはX全体の使用度数703の9割弱に相当することが分かる。

この事実は、前項に「消え－」をもつ複合語のなかで「消え残る」の語義推定の手掛かりとされる可能性の高い語に「消え去る」や「消え失せる」があること、そのため「消え残る」の構成要素間の関係は「消え去る」や「消え失せる」などから推定される可能性が高いことを示している。

一方、リスト1のYからは、「－残る」を後項要素とする複合動詞は8語あり、このうち使

用度数順上位３語（「生き残る」「居残る」「勝ち残る」）の使用度数の合計が 1294 で、これはＹ全体の使用度数 1383 の９割強に相当することが分かる。

この事実は、後項に「－残る」をもつ複合語のなかで「消え残る」の語義推定の手掛かりとされる可能性の高い語に「生き残る」「居残る」「勝ち残る」がある[3)]こと、そのため「消え残る」の構成要素間の関係は「生き残る」「居残る」「勝ち残る」などから推定される可能性が高いことを示している。

複合動詞の前項動詞（V1）と後項動詞（V2）の関係は多様である。

影山太郎（1993、1999）などでは語彙的複合動詞の V1 と V2 の意味関係を、1. 手段、2. 様態、3. 原因、4. 並列、5. 補文関係、6. 副詞的の６種に分類していたが、影山（2013）では「語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係を明示的な意味カテゴリーとして設定することは、あまり有意義とは思えない」とし、「従来のように細かい分類を追求するのとは逆の方向として、大きな意味タイプを２つだけ設定することを提案する。分類の目安 ── あくまで目安であり、絶対的な分類基準ではない ── はごく単純で、［V1 て、V2］と言い換えられるかどうかである。」と述べている。その結果、1. 手段、2. 様態、3. 原因、4. 並列のように［V1 て、V2］に言い換えられるものは「主題関係複合動詞」とし、5. 補文関係、6. 副詞的のように言い換えられないものは「アスペクト複合動詞」とした。

この影山（2013）に倣うと、Ｘの「消え去る」は［消えテ去る］、「消え失せる」は［消えテ失せる］と言い換えられ、

消え＋ V2　⇒　［消えテ V2］

のように捉えられる。

一方、Ｙ「生き残る」は［生きテ残る］、「居残る」は［あとまで居テ残る］、「勝ち残る」は［勝っテ残る］と言い換えられ、

V1 ＋残る　⇒　［V1 テ残る］

のように捉えられる。

以上のことから、複合動詞「消え残る」に初めて接した人は、

［消えテ残る］

のように捉える可能性が高いと言えるのである。

3.3　語の意味

「消え残る」は次の歌詞にも見られる。

（2）　雨は夜更け過ぎに
　　雪へと変わるだろう
　　Silent night, Holy night

きっと君は来ない
ひとりきりのクリスマス・イブ
Silent night, Holy night

心深く　秘めた想い
叶えられそうもない
必ず今夜なら
言えそうな気がした
Silent night, Holy night

まだ消え残る　君への想い
夜へと降り続く
街角にはクリスマス・トゥリー
銀色のきらめき
Silent night, Holy night
（「クリスマス・イブ」）

(2)「クリスマス・イブ」において「消え残る」のは「君への想い」であり、その想いは5行前の「心深く秘めた想い」でもある。つまり「君への想い」は今も続く切ない想いである以上、この「消え残る」を［消えテ残る］とは考えにくい。

国語辞典には〈消えないであとに残る〉[4]（『新明解国語辞典』第5版）、〈他のものが消えてしまったのに、それだけが消えないで残る。〉（『岩波国語辞典』第7版新版）とあるが、これらの語釈によれば、(1)「鉄道唱歌」の一節は、四十七士が討ち入りをした師走の夜の〈雪は消えても　四十七士の名は千載の後までも消えないで残る〉、(2)「クリスマス・イブ」の一節は〈まだ消えないで残っている君への想い〉ということになり、前後の文脈とも合う。

同様に (3) ～ (5) の小説や学術書に見られる「消え残る」も〈消えないで残る〉の意味である。

(3)　雪が積もったように白々とした野面の果てに、消え残った人家の灯が心細げに震えている。（森村誠一『人間の証明』光文社）

(4)　名調子にも共通点がある。「時は元禄十五年十二月十四日、軒の棟木に消え残る、雪の明かりは味方の松明、同一体の黒装束、袖に畝り山道の合い印、襟には白き布を付け、（水原明人『江戸語・東京語・標準語』講談社）

(5)　いや、あれより遥かに大きく、遥かに澄んでいる。天頂に消え残った星を見上げた時、東京を思った。（山内久『私も戦争に行った』岩波書店）

4. 「ー残る」を後項にもつ複合動詞

4.1 「ー残る」を後項にもつ複合動詞の種類

「消え残る」を〈消えないで残る〉と解した場合、前項動詞「消える」は否定されている。つまり「消え残る」は、［V1 テ V2］ではなく、

［V1 ナイデ V2］

のように見られる。（しかし、それはそのように見えるだけのことであって、事実はそうではない。この点については「5. 2 種の型の関係」で詳述する）。

このように「V1 ＋残る」の複合動詞で［V1 ナイデ残る］型と認められる語にはリスト 1 に挙がっている「焼け残る」があるが、そのほかにどのような語があるだろうか。

そこで、「－残る」を V2 とする複合動詞を広く採集することにする[5)]。採集にあたっては、中高生・大学生が目にしやすい種々の辞典を調査した。その結果がリスト 2 である（リスト 1 に挙げた『新明解国語辞典　第 5 版』『岩波国語辞典　第 7 版新版』も含めて一覧化した）。

調査の結果、「－残る」を V2 とする複合動詞は、『例解新国語辞典　第 9 版』（収録語数約 59000）、『福武国語辞典　初版』（収録語数約 60000）、『岩波国語辞典　第 7 版新版』（収録語数約 65000）、『小学館　現代国語例解辞典　第 4 版』（収録語数約 69000）、『明鏡国語辞典　初版』（収録語数約 70000）、『新明解国語辞典　第 5 版』（収録語数約 73000）、『新潮現代国語辞典　初版』（収録語数約 77000）、『三省堂現代新国語辞典　第 6 版』（収録語数約 77500）、『三省堂国語辞典　第 7 版』（収録語数約 82000）、『集英社国語辞典　第 3 版』（収録語数約 95000）、『学研国語大辞典　初版』（収録語数約 100000）などの現代語の小型・中型国語辞典に 6～10 語、『大辞林　第 2 版』（収録語数約 238000）、『大辞泉　第 2 版』（収録語数約 250000）、『広辞苑第 7 版』（収録語数約 250000）などの古語・現代語の中型辞典に 11～15 語、古語・現代語の大型辞典である『日本国語大辞典　第 2 版』（収録語数約 500000）に 24 語が掲載されている。「－残る」を V2 とする複合動詞の掲載数は辞典によってばらつきがあるが、それは辞典の収録語数や古語収録の有無による違いが大きい。各辞書の重複を避けると、「－残る」を V2 とする複合動詞は 25 語になる。

4.2 「ー残る」を後項にもつ複合動詞の語義

4.1 の調査から、「－残る」を V2 とする複合動詞は「消え残る」を含めて 25 語あることが明らかになった。

この 25 語のなかには『日本国語大辞典　第 2 版』にのみ収録されている語が少なくない。しかもそのような語のなかには「いいのこる（言残）」「よりのこる（選残）」のように例が示されず、その語の存在が確認しにくいものがある。そこで、そのような 2 語を除いたうえで、各語の意味について収録語数最多の同辞典の語釈を参照しながら考察することにする。なお、

【リスト2】各辞典に掲載された「－残る」を後項要素に持つ複合動詞

複合動詞	漢字表記	例解新国語辞典　第九版	福武国語辞典　初版	岩波国語辞典　第七版新版	現代国語例解辞典　第四版	明鏡国語辞典　初版	新明解国語辞典　第五版	新潮現代国語辞典　初版	三省堂現代新国語辞典　第六版	三省堂国語辞典　第七版	集英社国語辞典　第三版	学研国語大辞典　初版	大辞林　第三版	大辞泉　第二版	広辞苑　第七版	日本国語大辞典　第二版	掲載辞書の数
あけのこる	明残	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
いいのこる	言残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
いきのこる	生残	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
いてのこる	凍残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
いのこる	居残	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
うれのこる	売残	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	8
おちのこる	落残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
おれのこる	折残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
かすみのこる	霞残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	2
かちのこる	勝残	○	×	×	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	×	8
かれのこる	枯残	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	6
きえのこる	消残	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
くちのこる	朽残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	3
くれのこる	暮残	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
けのこる	消残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	3
こぼれのこる	毀残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
さきのこる	咲残	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
しにのこる	死残	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	4
ちりのこる	散残	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
ひきのこる	引残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
みのこる	見残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
むらぎえのこる	斑消残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
もれのこる	漏（洩）残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
やけのこる	焼残	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	13
よりのこる	選残	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	1
立項数		6	6	8	10	8	8	10	10	9	9	9	11	14	15	24	

同辞典に収録のない「勝ち残る」については『新明解国語辞典　第５版』を参照する。

① あけのこる（明残）
（ア）（月や星などが）夜が明けても空に残っている。（イ）また、まだすっかり夜が明けきらない[6)]。

② いきのこる（生残）
他の多くの人は死んだのに、死なないでこの世に残る。

③ いてのこる（凍残）
凍って、そのまま残る。

④ いのこる（居残）
他のものが去った後まで、そこにとどまる。

⑤ うれのこる（売残）
(1) 売れないであとへ残る。
(2) 遊女などが客のないために残っている。
(3) 女性が婚期をのがして独身でいる。また、卒業期に就職できないでいる。

⑥ おちのこる（落残）
攻め滅ぼされないで生き残る。また、逃げおくれる。逃げのびることができないで残る。

⑦ おれのこる（折残）
いくつかの物が折れたとき、折れないで残る。また、一つの物が折れてその一部が残る。

⑧ かすみのこる（霞残）
一部分だけ霞がかからないで残る。

⑨ かちのこる（勝残）
試合・勝負などに勝って、次の段階の試合・勝負に出る権利を得る。

⑩ かれのこる（枯残）
他の草木がすべて枯れてしまった中で、それだけが枯れないで残る。

⑪ きえのこる（消残）
(1) すべてが消えてしまわないで、あとに少し残る。
(2) 生き残る。

⑫ くちのこる（朽残）
(1) 朽ちかかって生き残る。また、枯れかかって残る。
(2) 腐らないで残る。

⑬ くれのこる（暮残）
日が沈んだあとに、しばらく明るさが残る。

⑭ けのこる（消残）

消え残る。消えないで残っている。

⑮　こぼれのこる（毀残）

こわれたままで残る。

⑯　さきのこる（咲残）

(1) 他の花の散った後まで散らないで咲いている。

(2) 咲くのが他の花よりおくれる。咲かないまま残っている。

⑰　しにのこる（死残）

ほかの者はみな死んでしまって、自分だけが、死ぬべきところを死なないで生き残る。死におくれる。

⑱　ちりのこる（散残）

散らないで残る。他のものが多く散ったあとにまだ残っている。

⑲　ひきのこる（引残）

さし引いて余りが出る。

⑳　みのこる（見残）

見られないまま残る。

㉑　むらぎえのこる（斑消残）

雪などがまだらに消え残る。

㉒　もれのこる（漏残・洩残）

こぼれて残る。はずされて残る。わずかにのがれ残る。

㉓　やけのこる（焼残）

焼けないで残る。焼けきらないで残る。

①「あけのこる（明残）」の〈(ア)（月や星などが）夜が明けても空に残っている。〉は〈夜が明けて、まだ月や星などが空に残っている〉のであるから［V1 テ残る］型である。②「いきのこる（生残）」の〈…死なないでこの世に残る。〉は〈生きて残る〉ことであり、⑨「かちのこる（勝残）」の〈試合・勝負などに勝って、次の段階の試合・勝負に出る権利を得る。〉も〈勝って残る〉ことであるから［V1 テ残る］型である。③、④、⑮、⑲、㉒も同様である。⑯(1) の〈他の花の散った後まで散らないで咲いている。〉は〈他の花が散っても、その花は咲いたまま残っている〉ということであるから、やはり［V1 テ残る］型である。

一方、①「あけのこる（明残）」の〈(イ) まだすっかり夜が明けきらない。〉は〈完全に明けないで暗さが残っている〉からであるので［V1 ナイデ残る］型である。⑤「うれのこる（売残）」の (2) (3) の語義は〈(1) 売れないであとへ残る。〉からの派生であり、⑤はいずれも［V1 ナイデ残る］型と考えられる。⑥「おちのこる（落残）」の〈攻め滅ぼされないで生き残る。また、逃げおくれる。逃げのびることができないで残る。〉は〈敵の手に城が落ちない

で、残る〉の意味にも、〈攻められて落ち延びようとしたができずにその場にとどまる〉の意味にも用いられるが、いずれも［V1 ナイデ残る］型である。⑦、⑧、⑩、⑪(1)、⑫(2) も同様である。⑪(2) は、「消える」に〈死ぬ〉の意味があるために「消え残る」全体が〈死なないで残る〉すなわち〈生き残る〉という意味になっているのであるから、［V1 ナイデ残る］型と判断される。⑫(1) の〈朽ちかかって生き残る。また、枯れかかって残る。〉は〈完全には朽ちないで残る。また枯れ切らないで残る〉ということであるから、やはり［V1 ナイデ残る］型と判断される。⑬「くれのこる（暮残)」の〈日が沈んだあとに、しばらく明るさが残る。日が暮れたあとに なお明るさが残っている。〉というのは、〈暮れきっていない（まだ完全に暮れていない)〉から明るさが残っていると考えられる。『岩波国語辞典　第 7 版新版』などの〈日が暮れきらず、明るさが残る。〉という語釈もその証左となろう。したがって、この⑬も［V1 ナイデ残る］型であると判断される。⑭、⑯(2)、⑰、⑱、⑳、㉑、㉓も同様に［V1 ナイデ残る］型と考えられる。

このような調査の結果、「V1 ＋残る」の各語は次のように整理できる。

［V1 テ残る］型…①(ア)、②、③、④、⑨、⑮、⑯(1)、⑲、㉒

［V1 ナイデ残る］型…①(イ)、⑤(1)(2)(3)、⑥、⑦、⑧、⑩、⑪(1)(2)、⑫(1)(2)、⑬、⑭、⑯(2)、⑰、⑱、⑳、㉑、㉓

この結果から、「V1 ＋残る」の複合動詞において、（異なり語数の面では）［V1 ナイデ残る］型の方が［V1 テ残る］型よりも優勢であると言えるのである。

4.3　「入り残る」の造語

ここで、「－残る」を V2 とする複合動詞の造語について考えてみたい。

3.2 のリスト 1 のように、現代では［V1 テ残る］型の使用が［V1 ナイデ残る］型の使用よりも多い（延べ語数が大である）が、その一方で 4.2 で明らかになったように［V1 ナイデ残る］型に属する語の種類は［V1 テ残る］型に属するものより豊富である（異なり語数が大である)。

この事実から、かつては現代よりも［V1 ナイデ残る］型が生産的であったことが考えられる。このことは、(1)「鉄道唱歌」の 1 番に見られる「入り残る」という造語からもうかがえよう。当該箇所を再掲する。

(1) 汽笛一声　新橋を
　はやわが汽車は離れたり
　愛宕（あたご）の山に<u>入り残る</u>
　月を旅路の友として

この語はリスト２に掲載のいずれの辞典類にも収録がなく、またBCCWJにも見られない珍しい語である。この語は［V1テ残る］型、［V1ナイデ残る］型のいずれであろうか。

もし［V1テ残る］型であれば、愛宕山（の後ろ）に「入る」のは「月」になるが、その場合「残る」ものは何であろうか。V1とV2の主語が一致しているとすれば、「残る」のも「月」ということになるが、それでは「月」が「入っテ残る」ことになって意味不明なものになる。

そもそも次のフレーズに「月を旅路の友として」とある以上、「月」は姿を見せているはずである。すなわち月は愛宕山（の後ろ）に入っていないと考えられる。そうすると、［V1ナイデ残る］型であり、車窓から愛宕山に月が沈みかけようとしている（つまり沈み切っていない）光景を詠んだものとして、〈愛宕の山にまだ入らずに残っている月を旅路の友として〉と捉えるのが合理的である。

5.　２種の型の関係

これまでの考察で、「－残る」を後項要素に持つ複合動詞には、［V1テ残る］型と［V1ナイデ残る］型の２種があることが明らかになった。

ここで、

（ｉ）［V1テ残る］型と［V1ナイデ残る］型の２種が存在する理由

（ii）［V1ナイデ残る］型において、語形上はない否定をあるように解する理由

について考えることにしたい。

まず、（ｉ）について。

杉村泰（2009）は「残る」が意志動詞としても無意志動詞としても用いられることと関係づけて、「主語が～したまま消えずに残存すること」を表す場合は「勝ち残る」のように前項が意志的な自動詞に、「主語が完全に～し尽されずに残存すること」を表す場合には「焼け残る」のように前項が無意志の自動詞になることを指摘している。

確かに前項が無意志性の動詞の場合には、［V1ナイデ残る］型のものが多いと言える。しかしながら、⑯の「咲き残る」は〈(1) 他の花の散った後まで散らないで咲いている。〉の意味にも、〈(2) 咲くのが他の花よりおくれる。咲かないまま残っている。〉の意味にも用いられているのであって、この場合、語義（1）の「咲き－」が意志動詞で、語義（2）の「咲き－」が無意志動詞であるとは考えにくいのである。つまり、このことはV1の意志性・無意志性の違いが２種の型の別と直接関係していないことを物語っている。

また「生き残る」には意志動詞か無意志動詞か判別しにくい例も多いが、その一方で次のように意志動詞か無意志動詞かの判別可能なものもあって、それらのいずれもが［V1テ残る］であることに注意すべきである。

(6) 若い妻の顔を眺めていると、ふと間もなく彼女に死なれてしまうのではないかという気がした。もし妻と死別れたら、一年間だけ生き残ろう、悲しい美しい一冊の詩集を書き残すために……と突飛な烈しい念想がその時胸のなかに浮上ってたぎったのだった。（原民喜「遥かな旅」『原民喜戦後全小説』講談社）

(7) 琵琶湖で真三郎との心中のすえひとり生き残ったお豊は、故郷をはなれ伯父の許で世間から隠れるように暮らしていた。

（青空文庫、『大菩薩峠』の「作品について」）

(6) の「生き－」は「生き残る」に意志の助動詞「う」が後接していることからも明らかなように、意志動詞と見られる。

(7) のお豊は心中をしようとしたのであるから、生きる意志があったのではなく、結果的に生き残ったものと考えられる。

このように「生きる」には意志動詞としての用法と無意志動詞としての用法の双方がある。ところが、無意志動詞の場合であっても決して［V1 ナイデ残る］とはならず、意志動詞の場合と同様に［V1 テ残る］となる。

以上の事実から、V1 の意志動詞か無意志動詞かという差異が、［V1 テ残る］型と［V1 ナイデ残る］型の違いとなって現れるのではないと判断されるのである。

むしろ、［V1 テ残る］型と［V1 ナイデ残る］型の差異は、「－残る」の多義性に起因すると考えられる。以下、この点について考察する。

「残る」の語義はおおよそ、

（一）同様の条件にある他のものが、その場所を離れたり、その状態から変わったりした後にも、そのものだけは離れなかったり変わったりせずにとどまる。

（二）（もとを想像させる状態が）完全には無くならないでまだある。

のように捉えることができる。

「放課後遅くまで学校に残って勉強する」というような場合は（一）の語義であり、「幼い頃のおもかげが残っている」というような場合は（二）の語義である。

このような「残る」の語義は複合動詞を形成する場合にも引き継がれており、（一）の語義は「生き残る」「居残る」「勝ち残る」などに、（二）の語義は「売れ残る」「消え残る」「焼け残る」などに見られる。

すなわち、（一）の語義を引き継げば［V1 テ残る］型になり、（二）の語義を引き継げば［V1 ナイデ残る］型になる。

先述のように⑯「咲き残る」には〈(1) 他の花が散った後まで散らないで咲いている〉と〈(2) 咲くのが他の花よりおくれる。咲かないまま残っている〉の 2 つの語義が見られる。(1) は［V1 テ残る］型で、(2) は［V1 ナイデ残る］型であるが、実はそれぞれ「残る」の

（一）と（二）の語義に由来しているのである。

また「生きる」と「死ぬ」は反義語であるにもかかわらず、それらをV1とする複合動詞の「生き残る」と「死に残る」とがほぼ同義であることも、「－残る」の多義性に起因しているわけである。

次に、（ⅱ）について。

「売れ残る」「消え残る」「焼け残る」などが語形上は否定がないにもかかわらず、［V1ナイデ残る］のように捉えられるのはどのような事情によるのであろうか。実はこのことは、「残る」の語義（二）における〈もとを想像させる状態が）完全には無くならないでまだある。〉の波線部が大きく関係していると見られる。「残る」の語義が〈完全には無くならないでまだある〉であれば、複合動詞「V1＋残る」は〈V1テモ、完全には無くならないでまだある〉という意味になる。「売れ残る」なら〈売れても、完全には無くならないでまだある〉、「消え残る」なら〈消えても、完全には無くならないでまだある〉、「焼け残る」なら〈焼けても、完全には無くならないでまだある〉という意味になる。

したがって、「売れ残る」「消え残る」「焼け残る」では、V1の「売れ－」「消え－」「焼け－」が否定されているわけではない。ところが、

〈売れても、完全には無くならないでまだある〉⇒〈売れないで残る〉

〈消えても、完全には無くならないでまだある〉⇒〈消えないで残る〉

〈焼けても、完全には無くならないでまだある〉⇒〈焼けないで残る〉

ように受け取られると、まるでV1が否定されているかのように見えるのである。

これまで、［V1テ残る］型と［V1ナイデ残る］型の2種に分けて考察を進めてきたが、この2種の型におけるV1とV2（＝残る）の関係は本質的な違いのないことが明らかとなり、両者を区別する必然性はもはやなくなった。したがって、次のようにいわゆる［V1ナイデ残る］型は［V1テ残る］型の一部として捉え直すことができる。

V1＋残る ｛【語義1】同様の条件にある他のものが、その場所を離れたり、その状態から変わったりした後にも、そのものだけは離れなかったり変わったりせずにとどまる。
【語義2】（もとを想像させる状態が）完全には無くならないでまだある。｝⇒［V1テ残る］

つまり［V1テ残る］型は［V1テ残る【語義1】］型として、いわゆる［V1ナイデ残る］型は［V1テ残る【語義2】］型として、統一的に捉えることができるのである。

6. おわりに

本稿は、語構成の面から複合語の語義を推定することが容易でない場合の例として、「－残る」を後項要素とする複合動詞を取り上げた。

該当する複合動詞には、「生き残る」「居残る」「勝ち残る」のような［V1 テ残る］型のものと、「売れ残る」「消え残る」「焼け残る」のようないわゆる［V1 ナイデ残る］型のものとがあったが、両者の違いとその違いの生じる理由について考察した。その結果、後者は V1 が否定されているように見えるが、それは表層的なことであって、実は後項要素「－残る」が本来有する語義に由来するものであることを突き止めた。「－残る」を V2 とする複合動詞が複雑に見えるのはまさに「残る」の語義の特徴に因るものにほかならなかったのであって、いわゆる［V1 ナイデ残る］型も実は［V1 テ残る］型であることを明らかにした。

なお、関連して他動詞「－残す」を V2 とする複合動詞が問題となるが、それについては紙幅の都合で稿を改めて述べることにする。

注

1）構成要素の意味が理解できても語義の推定が難しい語には、本稿で取り上げるような語のほかに、影山（2013）などに言う外心構造の複合語がある。

2）利用者が多く伝統のある両辞典を用いることにする。両辞典による調査結果はほぼ一致するが、なかには片方の辞書にしか掲載のない語もある。リスト 1 に挙げる語は、少なくともどちらかの辞書に掲載のある語である。

3）現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）によると、教科書に「生き残る」「勝ち残る」は次のように見られるが、「居残る」は見られない。

○この講堂の床に横たえた思い出がある。原も大木も傷は癒えて生き残ったが、何十人かの女学生たちは、先生や仲間たちにみとられて、（『現代文』教育出版株式会社 2007）

○ミトラ教やマニ教など東方から伝わった神秘的宗教が流行したが，そのなかで最終的に勝ち残って国家宗教の地位を獲得したのがキリスト教である。（『詳説世界史』山川出版社 2006）

4）本稿では意味は〈　〉で示すことにする。

5）複合動詞を対象としているため、当然のことながら前項要素が接辞化している「あいのこる（相残）」のようにものは対象外である。

6）（ア）および（イ）の符号は引用者によるものである。

参考文献

石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
影山太郎（1999）『形態論と意味』くろしお出版

影山太郎（2013）「語彙的複合動詞の新体系 ── その理論的・応用的意味合い ──」（『複合動詞研究の最先端 ── 謎の解明にむけて ──』ひつじ書房）
阪倉篤義（1966）『語構成の研究』角川書店
杉村泰（2009）「コーパスを利用した複合動詞「－残る」の意味分析」（『言語文化論集』30（2））
関一雄（1977）『国語複合動詞の研究』笠間書院
玉村禎郎（2003）「誤用例と語構成意識」韓國日本語教育學會『日語教育』第 23 輯
玉村禎郎（2005）「語義と語構成・字義」（『教師づくり教材づくり日本語教育』凡人社）
玉村禎郎（2013）「語構成分析と語義把握 ──『早晩』を例に ──」（『国語語彙史の研究』第 32 集　和泉書院）
玉村禎郎（2019）「語彙の理解を深める効果的な教育とは ── 国語教育への提言 ──」（『杏林大学外国語学部紀要』31 号）
姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
柳田征司（2011）『日本語の歴史 2』武蔵野書院
山田孝雄（1936）『日本語文法学概論』宝文館
由本陽子（2005）『複合動詞・派生動詞の意味と統語 ── モジュール形態論から見た日英語の動詞形成 ──』ひつじ書房

調査資料

小野正弘編集主幹（2019）『三省堂現代新国語辞典』第 6 版　三省堂
樺島忠夫他編（1989）『福武国語辞典』初版　福武書店
北原保雄編（2003）『明鏡国語辞典』初版　大修館書店
金田一京助他編（2002）『新明解国語辞典』第 5 版　三省堂
金田一春彦・池田弥三郎編（1978）『学研国語大辞典』初版　学習研究社
金田一春彦・金田一秀穂監修（2011）『新レインボー小学国語辞典』第 4 版　学習研究社
見坊豪紀他編（2014）『三省堂国語辞典』第 7 版　三省堂
国立国語研究所（2011）「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」
新村出編（2017）『広辞苑』第 7 版　岩波書店
西尾実他編（2011）『岩波国語辞典』第 7 版新版　岩波書店
日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2000～2002）『日本国語大辞典』第 2 版　小学館（JapanKnowledge による）
林巨樹監修（2008）『現代国語例解辞典』第 4 版　小学館
林四郎監修（2016）『例解新国語辞典』第 9 版　三省堂
松村明編（2006）『大辞林』第 3 版　三省堂
松村明監修（2012）『大辞泉』第 2 版　小学館
森岡健二他編（2012）『集英社国語辞典』第 3 版　集英社
山田俊雄他編（1985）『新潮現代国語辞典』初版　新潮社